

令和5年度 第3回 水窪小・中学校運営合同協議会 会議録 (要点記録)

- 1 開催日時 令和5年12月13日(水) 13時50分から15時35分まで  
ただし、14時10分までは授業参観
- 2 開催場所 水窪中学校 ランチルーム
- 3 出席委員 塩崎 正敏、田中 裕彦、金田 和代、柳田 温、高木 囀乃、牧内 真美  
石本 駿輔、尾嶋 光伸、平澤 文江
- 4 欠席委員 山本 功、西岡 小百合、伊藤 温
- 5 学 校 浮田 佳昭(水窪小校長)、加藤 雅嗣(水窪中校長)、新 英樹(水窪小教頭)  
太田 陽三(水窪中教頭)、中嶋 克利、山田 悠理、町田 真大、森下 真穂  
山田 蒼太、山田 薫、内山 由紀(CSディレクター)
- 6 教育委員会 堀田 洋一(教育総務課)
- 7 傍聴者 なし
- 8 協議事項

(1) 前回会議録の確認について

(2) 報告・協議

①教育総務課より

②水窪小学校・水窪中学校の「み・さ・く・ぼ」の活動(7月から12月まで)について報告

③グループ協議 授業参観の感想、水窪地区の現状や児童・生徒の様子から

9 会議録作成者 CSディレクター 内山 由紀

10 会議記録

司会の平澤委員から、委員総数12人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から、塩崎委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 前回会議録の確認について

議長の指示により、別紙資料の前回会議録を確認した。

(3) 報告・協議

①教育総務課より

CSの役割を考えていただくと、どんなに早くてもこの状況が変わっていくのは令和9年度である。それまで、子供が減少していく中での学校運営が進んでいく。どのように子供たちの学びを進めていけば良いか御意見をいただければと思う。本日の議題の中に、水窪地区の現状や児童生徒の様子からという話がある。来年度の教育課程の編成やランドデザインにも生かしていけるような話し合いになっていければ良い。皆様のお力をお貸しいただきながら、来年度に向けての準備ということを含めて熟議をお願いしたい。

②7月から12月までの水窪小学校・水窪中学校の「み・さ・く・ほ」の活動について報告

水窪小学校・水窪中学校教頭より、別紙資料に基づき、7月から12月までの「み・さ・く・ほ」の活動状況について報告があった。

③グループ協議（授業参観の感想、水窪地区の現状や児童・生徒の様子から）

○Aグループ（金田、牧内、太田、悠理、町田） 発表者 金田委員

- ・授業参観では、1年生が中学生らしくなったと感じた。
- ・自分の仕事プラス他の分担が当たり前である。これは水窪地区の強みである。
- ・本年度の職場体験は、「やまみち」と「まきうち」だけだった。今後増やしていくといいのではないか。（山の仕事や、木工、着付けなど）また、深掘りさせて、1回だけでなく、継続してやっていけるといいのではないか。
- ・2年生のお弁当作りでは、家庭科だけでなく、総合としてもやれるとよい。作るだけでなく、店頭で実際のお客様の表情を子供たちに見てもらって体験ができると実感もわき、良かったのではないか。
- ・水窪地区は幼小中ずっと一緒に、知っている仲間と育っている。空気感でわかってしまう。良い点もあるがもう少し刺激を与えて、人との関わりを持たせることができればよいと思う。
- ・長期間、他校との交流で、単発であっても1ヶ月2ヶ月といったスパンのことはできないか。

○Bグループ（柳田、平澤、石本、新、森下、薫） 発表者 柳田委員

- ・授業参観では、生徒間で和気藹々と活動している様子が見られた。40人、50人の中で発表するとき、堂々と発表できるだろうか。日頃そのような訓練ができないので、難しいところかなと思う。
- ・楽しく授業を受けている。子供も笑顔が絶えない。先生も笑顔である。
- ・少人数なのでマラソン大会をやっても誰かが1位、2位、3位になる。大規模校に行ったときはどうだろうか。現状に満足してしまうのではなく、将来どういう人になりたいか、どういう進路に進みたいか目標をもって、在学中に向上心を育ててほしい。

○Cグループ（高木、塩崎、田中、尾嶋、中嶋、蒼太） 発表者 蒼太

- ・生徒一人一人がのびのびと授業を受けている。タブレット導入等により、生徒主体の活動になっているところが関係しているのではないか。
- ・小中一貫になる不安はあるが、廃校ではなく、存続のための前向きな考え方ではないかと思う。今後、モデル校の良いところを研修していければよい。人員確保、予算の確保が課題になるのではないか。

その他連絡事項等

- ・水窪小教頭より、運営協議会自己評価、学校教育に関するアンケートについて説明があった。
- ・教育総務課より、運営協議会自己評価の評価項目について説明があった。

・ <学校支援コーディネーターの平澤委員から>

コミュニティ・スクール運営合同協議会の熟議の中でいろいろな意見が出されている。学校支援に入って下さっている方が高齢化してきていること、また、社会が大きく変わっていく中で、いろいろな体験活動が必要になってきており、今までの人材ではカバーできないところもあるという意見も出ていた。今年度は、これまで学校支援に入っていない方に積極的に声を掛けさせてもらい、新しい顔ぶれが学校の手伝いをして下さるようになった。皆様の熟議内容は、できることから学校と相談し対応している。